



パキスタン北部地震災害

救援金にご協力いただき
ありがとうございます



被災から1年を迎え、復旧・復興支援活動も本格的に行われています。パキスタン北部地震災害救援金の使途報告をいたします。

復興を支えてくれてありがとうございます
洪水被害もすぐに対応してくれました



パキスタンでは、7月末からの雨季に発生した地滑りや洪水で300人以上もの人が亡くなりました。生後3ヶ月のザイード・アクバル君も、この洪水で母と3歳の姉を亡くしました。

「嵐が近づいているとは知らずに寝ていたんだ。突然家に水が流れ込み、家は完全に流されてしまった。」と父親。

被害を受けた人々に対し、国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)とパキスタン赤新月社は、テント・毛布・薬・衛生品などの緊急救援物資を直ちに配布。伝染病を防ぐために、安全な水とトイレも供給し、衛生意識の向上にも取り組んでいます。

これらは地震復興支援事業の一つとして、連盟の支援により、2008年まで続けられます。

引続き、日本赤十字社の活動をご支援ください。
詳しくはリーフレットやホームページをご覧ください。

お問い合わせ



0570-009595

全国どこからでも最寄りの日本赤十字社支部につながります。



日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

<http://www.jrc.or.jp/>

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 (代表)

2005年10月8日、パキスタンの首都イスラマバードから北東95kmの地域を震源とするマグニチュード7.6の地震は、死者7万3,000人、負傷者12万8,000人、家屋を失った人々が350万人以上という、大きな被害をもたらしました。国際赤十字は約35億円の緊急救援計画を発表し、被災者の支援にあたってきました。

さらに、2006年7月から8月には、被災地を大雨と洪水が襲い、仮設住宅で暮らしていた人々が死亡してしまう事態も起こりました。度重なる天災にも負けず、被災者の皆さんは復興に向けて懸命に努力を続けています。

日本赤十字社では、学校や保健センター、飲料水供給システム、トイレ、排水処理システムの再建など救援・復興支援事業を実施しています。

こうした赤十字の活動は、皆様からお寄せいただいた救援金によって支えられています。ご協力いただき、ありがとうございました。ここに日本赤十字社を含む赤十字の取り組みをまとめましたので、ご報告します。



今もテント生活を余儀なくされている被災者の集落(バンナ)



地震で両親を失った子どもたちは親戚を頼って生きている(連盟)

パキスタン北部地震災害に対する赤十字の活動

国際赤十字は、災害直後の緊急救援から、厳しい冬の生活をのり切るための越冬支援、2007年末を目途とした復旧復興支援までを視野に、約35億円の緊急救援計画を発表し、被災者の支援にあたってきました。

●生活必需品などの配布

2006年7月までに、110万人に対して、テント 7万張、毛布 46万6,000枚、ビニールシート 13万2,000枚、波型トン板 22万枚、衛生キット 20万セット、ベッドシートなど63万枚を配布。



救援物資を受け取る被災者

●生活環境の改善

飲料水供給システムを15ヶ所再建、約1万5000のトイレ等衛生施設の設置完了、60の村落で60ヶ所の飲料水供給システム、4,450のトイレなど衛生施設の設置を予定。



巡回診療中の連盟の医師

●保健医療支援

被災者（特に女性と子ども）累計44万9,000人を診察。今後も6つの巡回診療チームを稼働させ、遠隔山間部の無医村を訪問する予定。「こころのケア」は3万2,000人に実施。今後も3万人に対して実施予定。



不衛生な水のために子供たちは胃腸炎をたびたび起こす

●生活再建

4,500家族に対して農作物の種子と肥料を配付。今後、2008年末まで1年に4,500家族に対して種子、肥料、農工具、25万本の果物の苗木や種子などを配付予定。

●建物の再建

今後、19の教育施設、11の保健医療施設、14のコミュニティー・センターなど44施設の建物再建を実施予定。

●災害予防

仮設住宅などで生活できない可能性のある1万3,500家族に対する救援物資を備蓄。パキスタン赤新月社の災害対応能力を向上。

(2006年9月13日 連盟活動報告等より)



建物復興支援:基礎の段階



住宅の骨組みを建てる



住居補修用に配付した工具セット



医薬品を配布するパキスタン赤新月社の職員



パキスタン赤新月社の
給水衛生施設再建チーム



医師の診察を待つ被災者に生活状況調査を行う連盟職員

日本赤十字社に寄せられた救援金

4万9,900件、21億9,500万円

救援金の使いみち

皆さまからお寄せいただいた救援金に加え、2005年12月に実施した「NHK海外たすけあいキャンペーン」で寄せられた1億5,000万円により、次のような活動を実施する予定です。

救援事業(医療班の派遣、救援物資の購入輸送、国際赤十字への資金援助など実施済みの事業) ……14億2,500万円

復旧・復興支援事業

保健・医療分野	……4億2,500万円
災害対策分野	……1億5,500万円
教育分野	……2億3,000万円
パキスタン赤新月社災害対応能力強化	……8,000万円
報告用パンフレット作成費等	……3,000万円

- パキスタン北東部チナリ、ダンニ、パッティカでプレハブによる基礎保健センターを5ヶ所再建(2006年7月)



- パキスタン赤新月社の医療・保健スタッフ、ボランティアの育成、巡回診療の実施を支援。
- ムザファラバードの義肢センターの建築及び資機材支援。
- 国際赤十字による約20万人を対象とした200ヶ所以上での飲料水供給システム、トイレ、排水処理システムの再建を支援。
- 生活再建事業として農業活動等の支援。
- 学校(3ヶ所)、職業訓練センター等(3ヶ所)の再建支援。
- 2006年～2007年の越冬対策としての救援物資の備蓄。
- パキスタン赤新月社支部の建物再建及び事務機器等の整備。